

在宅取組型(中学校)

学校名等	多治見市立南ヶ丘中学校
実施日時	令和2年の休校期間中の1週間
会場	各家庭
参加人数	全校親子
学習課題(分野)	「話そう!語ろう!わが家の約束」(家族の大切さ・思いやり)
運営者の願い	コロナ禍の休校期間を無駄に過ごすことなく、親子の関わりを深める機会にしたいと考え「話そう!語ろう!わが家の約束」に取り組んだ。SNSで役員会を行って検討し、実践カードに自己評価だけでなく相手からの評価も加えた。
学習の内容	



評価の工夫がある取組

達成度に自己評価だけでなく、相手からの評価があり、家族に認めってもらうことで、さらに頑張ろうという励みになり、自己肯定感が高まりました。



家族の目標がある取組

子どもの約束と保護者の約束を決めて取り組むことで、家族で目標をもって過ごすことができ、約束をきっかけにして会話が生まれ、親子の絆が深まりました。



役員の主体的な取組

家庭教育委員会では、休校期間中、子ども達のために何かをしたいと考え、家庭教育委員長が中心となって「話そう!語ろう!わが家の約束」運動を計画しました。コロナ禍で対面の役員会が開催できない中でも、SNSを活用して役員会を行って実践カードの検討を行って実践しました。

休校期間を無駄にせず、親子の会話やふれあいを増やして、親子の関わりを深める家庭教育学級<取組内容>

4月の始業式後、「在宅型家庭教育学級取組のお願い」と「実践カード」を配付して呼びかける。

- ①子どもと保護者がそれぞれ自分の約束を決める。
 - ②休校期間中、1週間を目安に各家庭で取り組む。
 - ③設定した約束の達成度を自己評価してパーセンテージを記入する。
 - ④保護者は子どもの、子どもは保護者の達成度を評価して、パーセンテージを記入する。
 - ⑤子どもから家族へ、保護者から子どもへ、メッセージを記入する。
 - ⑥家族でお互いの取組を振り返り、感想や反省を記入する。
 - ⑦休校期間終了後、学校へ提出する。
- 提出された実践カードを家庭教育委員長が中心になってまとめ、「家庭教育学級だより」を作成して保護者へ配付した。



<実践カードの感想より>

親:親子で各々の約束を設定する試みは、子どもにやらせるだけでなく、共に頑張るという点で、とても良かったです。引き続き体力づくり頑張ります。

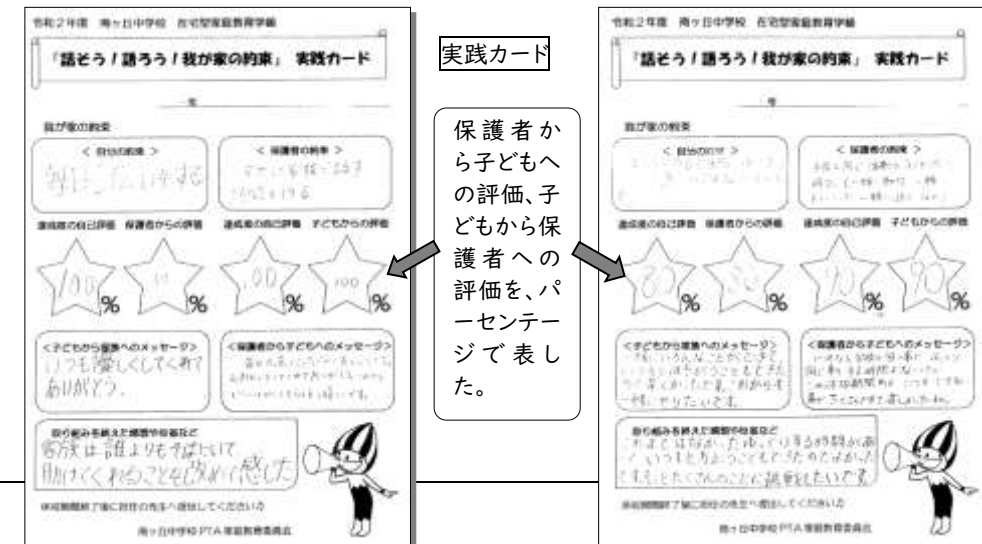
子:二日僕は起きることができなくて、リズムが乱れていたんで、少しずつ元に戻していきたいです。

親:長くいると時にはぶつかることもありますが、その時は、その都度、見つめ直す余裕もあったので良かったと思います。

子:家族と接する機会が増えたので、この取組をしてよかったと思いました。

親:なかなか家庭内では気になっていても改善できない悪習慣が多いので、約束にしてお互い注意し合うのも良いことだと思いました。

子:100%をこれからも続けていき、これからも手伝いをしていけるといいなあと思いました。



実践カード

保護者から子どもへの評価、子どもから保護者への評価を、パーセンテージで表した。